

令和元年度第2回砺波市行政改革市民会議議録（要旨）

1 開催日 令和2年2月21日（金） 午後1時55分～3時15分

2 場所 砺波市役所 本館3階 小ホール

3 出席者 <市民会議委員 13名のうち11名>

飯田委員、井上委員、今井委員、上田委員、島田委員、嶋田委員、武田委員、中村委員、野村委員、原野委員、藤井委員
（千々石委員及び本江委員は欠席）

<市当局・事務局 18名>

夏野市長、齊藤副市長、山本教育長、今井企画総務部長、黒河福祉市民部長、加藤商工農林部長、喜田建設水道部長、愛場砺波総合病院事務局長、畑教育委員会事務局長、川島庄川支所長、坪田企画調整課長、構財政課長、堀池総務課長、二俣総務課行政係長、境総務課人事係長、嶋田財政課公共施設総合管理係長、久保総務課行政係主任、高野総務課行政係主任

4 説明及び協議内容

- (1) 行政改革報告書及び行政改革推進計画について説明を行った。
- (2) 提案型事業評価対象事業について説明を行った。
- (3) 砺波市公共施設再編計画（案）について説明を行った。
- (4) (1)～(3)を踏まえて、意見交換を行った。

5 意見・協議の概要

(1) 行政改革報告書及び行政改革推進計画に関する意見・質問

ア RPAについて

【会 長】

RPAというのは、具体的にどのような事務に活用できそうなのか。

【市】

県内でも実証実験をしているところである。例えば会計課や税務課において、一定の入力作業について実証実験がされていて、中には、少し高度に活用されているものもある。今回砺波市においても、どのような事務がRPAに向いているのかということを検討するために、ワーキンググループを設置したいと考えている。

【会 長】

これから幅広く検討されるということと了解した。

イ ICTの有効活用について

【委員】

ICTの有効活用についてであるが、昨今は時代の流れが早く、どんどん新しいことが日々起こっている。市として、ハード面、ソフト面、色々あると思われるが、どんな体制でどういうふうに取り組みられるのか。組織の中だけではなかなかうまくいかないと思うので、組織外の人たちとどのようにコラボレートしていくのか、方向性があるのであれば、教えていただきたい。

【市】

現在の体制としては、地域情報化に資するため、総務課の中に、そのようなセクションをもっている。また、今までも、LGWAN（総合行政ネットワーク）などの専用ネットワークの配備であるとか、その時々最新の状況にうまく対応してきたと考えている。

ご指摘のとおり、進歩が早い分野の話である。組織外の人たちとのコラボレートというお話であるが、市として特定の外部組織に固定しているものではなく、必要に応じて大学の先生などに、ご意見を伺っている。

どこかの分野に特化すると、一方でどこかの分野は少し遅れるといった具合になるため、研究は広い意味で進めていきたい。そういった意味もあり、先ほど申し上げた庁内の研究会を、新たな年度においては二つ立上げを考えている。RPAについては、会議録の作成業務のようなものには活用しやすくなっているの、そういったものから取り組んでまいりたい。

【市長】

ICTの活用については、もはや「庁内のOA（オフィスの機械化）」という時代ではなくて、色々な技術を、それぞれの場で広く活用できるようになっている。「例えば農業だったら、ICTを使った農業」みたいな話がどんどん出ており、また、例えば道路の管理なども、データ化できる。さらにそれを民間と共有すれば、非常に有意義なものになる。そういった話とか、行政の中にとどまらないようなケースがでてきているので、そういったものを受け、取り組んでまいりたい。それぞれの事業担当課と情報担当課が、連携しながら、そういった流れでやっていきたいと思う。

【会長】

ICTの活用については、ソサイエティ5.0、5Gというキーワードでいろいろ語られているが、庁内の行政の効率化はもちろん、地域のインフラとしてこれらを整えていかなければならないような部分もあるというふうに思うので、その辺りも含めて、民間の方、地域の諸団体の方々とも交流しながら進めていっていただく必要があると思う。

ウ AI・5G等次世代ICTの活用について

【委員】

行政改革報告書7ページの、令和2年度の取組みとして、「AI・5G等次世代ICTの活用」というところで、「様々な地域課題の解決に向け」と書いてあるが、様々な地域課題とは何を指しているのか。例えば、教育環境ということについての対応というのは、この中に入っているのかと思い、お聞きする。

【市】

住民生活というのは、もはやICTと切り離せないと思われることから、このAI・5G等次世代ICTではどの分野に特化して活用するということではないと考えている。また、学校環境におけるICT化というのは、また別のレベルと思われるが、この資料で書かれてある部分は、先ほど述べたように広めの思いでいる。

【委員】

教育環境は、非常に喫緊の課題に直面している。それは少子化、そして教師のなり手が減少してること。教育現場で深刻な状態になっている。それを踏まえ、昨年、市教育委員会への要望書の中で、新学習指導要領のプログラミング教育実施に対応したインターネット高速大容量回線における教育環境の整備ということを提案させていただいている。ぜひ、教育環境ということも視野に入れていただければと思う。

【市】

国の方では、今、いわゆるGIGAスクール構想といって、5Gに対応した形で、児童生徒等の教育環境をしっかりとしていこうということで進めている。その中身については、まず学校内のWi-Fi環境をしっかりと整備すること、もう一つが、児童生徒1人1台ということを進めていこうということの、二本の柱になっている。一本目の柱の学校のWi-Fi環境の整備については、学校の中に、いわゆる通信の線が入っているが、それを5Gに対応したものに張り替えるということである。2年度中の夏休み等の期間を利用して、工事ができればと考えている。その工事が終わって初めてその子供たちのネット環境が整ったということになってくるので、国の方では、令和2年度には、小学校の5年生、6年生、そして中学校1年生を対象に、基本的には1人1台ずつの整備をしようというような形になっている。このあと2年度から5年かけて、児童生徒1人1台という形で進めてまいる。国の構想にのっとって、砺波市としてもしっかりと整備をしていきたいというふうに考えている。

【会長】

何に使えるかというところを発見していただくというところが、一番の大事なところとっておりますので、その辺りアンテナを敏感に張っていただいて取り組んでいただきたいと思う。

(2) 提案型事業評価対象事業に関する意見・質問

ア 節減額について

【会 長】

提案型事業評価に取り組んだ結果の節減額というのは、どこか資料に掲載されているか。

【市 長】

(行革報告書に一部掲載はあるが) すべてのものという(数値化できないものもあり)資料には掲載していない。平成28年度から実施し、これまで26の事業を評価しており、現在のところその半分、13事業について達成しているということで、今後も順次、達成することにより、削減額を生み出せられればと考えている。

【会 長】

削減額というのは、金額の多寡だけではなくて、例えば職員の作業にあたる時間、コストのようなものを減らすことも削減額。いろいろなかたちでとらえていただければと思う。

イ 青少年健全育成大会講演会等と市教育大会講演会の統合について

【委 員】

「取組状況」にあるように、教育大会のあり方の見直しにより、教育大会及び講演会は中止とし、学校教育等の表彰は「市功労者表彰」に併せて実施された。それに決まったのはいいが、このことについて各自治振興会は一切聞いていなかったことから、対応に苦慮した面があった。あり方が変わったら変わったということで、事前に連絡をいただければと思う。

【市 長】

ご指摘のとおり、推薦いただいた、学校関係の皆さんや社会教育団体の方などの出身、所属する地域の皆様には、案内が十分でなかったということは、今回反省すべき点として理解している。次年度においては、しっかりと対応していかないと考えている。

【市 長】

制度を変えるときは周知が大事だと改めて認識した。委員のご指摘のとおりなので、一つの例として注意してまいりたい。

ウ 達成状況について

【委 員】

今回の資料では11までの事業内容が記載されているが、平成28年度以降、達成済みが何件分かれば、教えていただきたい。

【 市 】

平成28年度から26の事業に取り組んでおり、そのうち13の事業については、すでに達成済みということになっている。

【委 員】

単純に件数で評価できるわけではないかもしれないが、半分ほどは終わったということか。

【 市 】

お見込みのとおり。

【会 長】

引き続き、取り組んでいただきたいと思う。また、決して、取り上げたから、最後まで達成しないといけないという類のものではないと思うので、まずは「チャレンジ」というふうにやっていただいて、ご検討いただくということで、よろしくお願ひしたい。

(3) 砺波市公共施設再編計画（案）に関する意見・質問

ア 庄川美術館について

【委 員】

市としては、ないと困る施設を重点的に残していきたいとおっしゃっておられるが、庄川町に住む一個人としては、庄川美術館が最終的には廃止ということが大変残念という思いがある。景色もいいところに所在していることもあり、また秋の紅葉、桜の時期には若い方々が多く来られることから、美術館だけは、美術館といった名称でなくてもなにか違った形で、残っていつてくれればと思う。

【市 長】

庄川美術館については、想いはよくわかるが、現実を見ていただきたいと思う。現状を踏まえて、美術館の中の作品をどう展示するか考えていきたい。

なお、水資料館については、庄川の水の歴史や文化は何とか後継に伝えたいと思う。また、庄川特産館の方はどうか。これをもっと上手に活用できないか。もっと人が来るところに、美術品が見えるような展示にできないか。彫刻だったら、彫刻の森美術館のように、屋外展示もあるのではないか。そんなことも幅広く議論してもらって、より多くの人に来てもらえるようにしようと考えている。

【会 長】

今ある施設を廃止するとなったときに、どのように進めていくかということが大事になる。ただ、ハコがなくなるということと、機能がなくなるということは必ずしもイコールではない。それから、その役割が消えたということとも少し違う。どの面をどういった形で、活用して又は残していくかということ、これから、それ

それぞれの地区も含めて、検討していくということが大事なのだろうと思う。

イ 時代にあった施設について

【委員】

公共施設の再編においては、選択や地域のバランスなどを考えるとなかなか大変なのだろうと思うが、例えば、保育園、幼稚園を合わせたような「こども園」という発展的な形で、時代にあったような施設をつくっていくということは大切なことだと思うので、これからもよろしくお願ひしたいと思う。

ウ 説明会の開催について

【委員】

前日も申し上げたが、昨年、副市長始め、行政の方々が砺波市PTA連合会に足を運んでいただき、様々なお話をしてくださった。充実した話ができただけではないかと思っている。再編計画というのは単年度で終わるものではないと思っているので、今後とも、各地区や各種団体等への説明会の開催をお願ひしたいと思う。

(4) 市政全般に関する意見・質問及び意見交換

ア 組織の見直しについて

【委員】

組織の見直しについて検討はしているか。

【市】

合併してから15年を迎えるが、その間組織についてはいろいろと検討し、縮小したり、統合したりしてきた。例えば、公共施設再編を考えるにあたっては、専門職員を配置する組織を今年度から設置している。今後は、教育委員会の配置(位置)などをどうするかということが取りざたされていることから、この点について検討を進めてまいりたい。

イ 会議における時間配分と資料の量について

【委員】

会議においては報告と協議について時間配分が半々というのが望ましいと思う。今日の会議では時間配分がちょうど30分、30分で、さすがだと思った。ただ、配付資料の量については、バックデータとしては必要になるが、1時間の会議にしたときの配付資料としては多いのではないか。民間では、A4の1枚をベストと言って、2枚目はベターと言ひ、ペーパーレスに取り組んでいる。

【市長】

配付資料を事前送付しているというのは、事前に目を通していただきたいという意味がある。また、今日の説明も、変更や追加のあった点に絞って説明させていただいており、なんとか会議全体の時間の半分を超えないようにしようと工夫してき

たもの。そういった意味で、事前送付している資料をぜひ読んでいただいて、もしわからないところがあれば、会議の前にでも、事前にご連絡いただければと思う。

ウ 少子高齢社会等の環境変化に対応するための（市民等）意見反映の場について

【委員】

今、未知の少子高齢社会になった。砺波市は人口の減少数は少ないものの、私の周りでは結婚数がものすごく少ない。具体的な対策が必要だが、行政として対策を具体化するにあたって、「今行政としてはこういうことを考えているが、どう思うか」といったQ&A的な会議があってもいいのではないかと思う。

エ 現状把握について

【委員】

市民が何を望んでいるかということを知ることや、現場からそういう意見を聞くことが大事だと思う。

オ 外部の意見について

【委員】

外部の意見や第三者の意見の共有については、報告、連絡、相談の俗にいう「ほうれんそう」が大事。これは縦割りの運用だとうまくいかない。先ほどの市表彰関係がそういうことではないかと思う。

カ 職員のレベルアップについて

【委員】

昨今の機械化によって、仕事のやり方が変わってきていると思うが、機械でできることは、まだ十分ではない。そういうことから、まだまだ職員がやらなければならないことはあると思われるため、職員のレベルアップが必要だろうと考える。職員といっても正職員のみならず、臨時職員、派遣職員も皆平等に、研修、教育、訓練を受けられる機会を与えてあげていただきたい。職員教育は民間ではずっと昔からやっていて、中には、三日間も研修所に詰めて幹部候補生に教えることもある。

【市長】

自治体にも研修所があり、そこにやはり何カ月も滞在することがある。相当良い勉強をして帰ってくるし、また県内でも特に市町村の職員が定期的に合同で研修を受けている。

職員のレベルアップに漫然としているわけではないので、ご理解いただきたい。

キ 外部の仕組み（ISO等）の導入について

【委員】

例えば、市役所における書類のペーパーレス化について、建築業（民間）ではISOの九千何番などを受けていないと入札資格がないと聞いたことがあるが、市役

所ではハンコをひとつ押すのでも従来どおりたくさん紙に押さないと承認しないというのであれば、今の時代にあっていない。

【市長】

「民間でやっているから」という言葉がまるで金科玉条みたいに言われることについては違和感を覚える。民間は利潤追求を主としてやっている。行政にもそういう部分はもちろんあるが、そうでない部分もある。やり方として、民間でやったことがすべて良いというふうな論調がたまに挙がるが、全部が全部そうではない。

一方で、今般の下水道事業の企業会計化というのは、逆に言うと、民間的な手法。要するに（従来の手法では）ストックがわからなかった。こういうのはよろしくないだろう、バランスシートを見てやっていこうということで、言ってみれば民間的な手法を採り入れていくということになったもの。

ク 地域愛について

【委員】

これからの砺波は、これからの人たちに頑張ってもらわなければならないから、若い人たちに地域愛につながるような教育や地域のつながり、砺波市の良さや課題を伝えて、理解してもらいたいと思う。砺波市に生まれた人が生活、就職、結婚、家庭をもって、老後までいたいと思えるところになればいいと考える。

【市長】

郷土愛（地域愛）については、ふるさと教育については多分、一番真剣に取り組んでいるのではないかと思う。また、最近注目されてる「小規模多機能自治」についてであるが、要するに地域で色々なことを頑張ってもらおうということについては、本市はもう日本一だと思っている。国が今そういうことを言いだしているが、実は砺波では当たり前だと思っている。例えば自治振興会で福祉や文化、除雪も含めて、色々なことやっていただいている。その担い手も住民であり、受け手も住民である。制度として、これだけ定着しているということは誇るべきことである。